

地域開発と環境問題研究班の活動

—— 序にかえて ——

桜井善雄

(地域開発と環境問題研究班 世話人)

信州大学環境問題研究教育懇談会の地域開発と環境問題研究班は、長野県下の各地でゴルフ場などの開発事業が一段と加速され、関係地域の自然環境や生活環境に及ぼす好ましくない影響が懸念されるような事態も出現してきた最近の情勢にかんがみ、1989年から、上記の研究懇談会のなかに設けられた研究グループである。

この研究班は、信州大学のすべての学部にあたがる30余名の研究者から構成されており、その専門分野は、地質学、植物学、動物学、昆虫学、生態学、陸水学、農学、林学、土木工学、都市計画、情報工学、衛生学、公衆衛生学、経済学、等多岐にわたっている。

このような研究班のメンバーのなかには、長野県や県内市町村における公害対策、災害対策、環境影響評価、地域開発整備計画、などの審議会あるいは委員会に参画したり、また、各地のさまざまな開発計画が地域環境に及ぼす悪影響を憂慮し、あるいはこれに反対する住民団体の相談に与ってきた者も少なくない。さらに、そのように地域社会と直接の関係をもたない者も、自己の専門分野の研究と教育を通して、常に地域の環境問題には大きな関心を払ってきた。そして、このような長野県という身近な地域の環境問題との係わりを通して、われわれは各自の専門分野の間での理論や情報の交換を深めるとともに、学外の関係分野とも交流を持つ必要性を強く感じてきたのである。

以上のような背景から、当研究班は、昨年2月、「ゴルフ場等の開発と地域環境問題」を取り上げ、松本市において公開シンポジウムを開催したが、今年度はさらに、ゴルフ場その他の地域開発の行為が、流出の変化やそれに伴う災害の発生、地下水の汚染、枯渇、等をひき起こすかも知れない問題が長野県下にも急増してきたことにかんがみ、「地域開発と水問題」をテーマとした公開シンポジウムを計画した。

このシンポジウムには、当研究班のメンバー10人のほか、1989年から1年余にわたり地域の水問題を取り上げてすぐれた報道キャンペーンを続けてこられた、信濃毎日新聞社の“水とともに”執筆グループの代表である同社報道部長猪股征一氏（当日は都合により野口幸重氏が代って講演）、長野県生活環境部環境自然保護課長加世田正道氏、ならびに河川土木技術分野において民間でユニークな調査研究活動を進めておられる北原寿磨氏の各位にも講演をお願いし、快諾を頂いた。

公開シンポジウムは、1990年2月17日に長野市の長野県県民文化会館で開催し、およそ400人の参加者があり、13題の講演と熱心な質疑・討論が行われた。しかし、1日の行事としては講演の数がいささか多過ぎたため、講演者にとっては時間が不足であり、参加者にとっては質疑・討論に不満が残ったことは否めない。この点は、参加票の感想欄で多くの参加者からも指摘されたところである。しかし、企画全体としては、その意義について大多数の参加者の評価がえられ、次年度も継続開催を望む声が圧倒的に多かった。

本書は、上記の「地域開発と水問題シンポジウム」におけるすべての講演の資料と講演内容のあらすじを収録したものであり、昨年度にひき続き、信州大学環境問題研究教育懇談会の年次報告書である“環境科学年報－信州大学”第 12 号の別冊として刊行した。

本書の発行に当たり、学内外から参加された講演者および協力者の各位に対し、深甚なる謝意を表する次第である。

地域開発と環境問題研究班の活動も、2 回の公開シンポジウムを行ったとはいえ、日常の連携あるいは共同の研究活動は、決して十分とはいえない。次年度はさらに研究交流の機会を多くするとともに、三度、地域の自然環境と生活環境に係わる現下の重要問題を取り上げ、公開のシンポジウムを開催したいと考えている。研究班員各位には一層のご協力をお願いするとともに、学外の皆さんにも、是非、忌憚のないご批判と問題の提起をお願いしたい。